

挑む!

人工知能の研究者

あさたに さとし
浅谷 学嗣さん(27)

関西のAI熱盛り上げたい

双腕ロボットが指でタオルの端をつまむ。ふんわりとたたむと、手の甲で上からポンと押さえて平らに。サラダも器用に盛り付ける。芸が細かい。

このロボットの制御プログラムを作った。ルールと目標を与えると、自分で動きを学習する。「多用途」が特徴だ。製造現場での活用をめざしている。「自分の技術が社会に出て行く。やりがいを感じます」

「関西ならおもしろい体験ができそう」と広島から阪大に進み、人工知能

(AI)を専攻した。だが、専門を生かせる就職先は関西になかった。周囲の仲間はみな、職探しに上京していく。

「なんなんだ、東京ばっか盛り上がりだ」。関西のAI熱に火をつけようと、2年ほど前に阪大の知人と「人工知能研究会」を立ち上げた。中小企業などの関心が高く、会員は1500人超に。参加者の一人から声がかかり、ベンチャー設立に加わった。発起人は京大出身の元DeNA会長、春田真さん。モットーは「阪大と京大の若手研究者を集めてAIに革命を起こす」。

「自分が中学生のときから脳出血でずっと身体が不自由な母を手助けできればいい」。タオルをたたむ双腕が母をやさしく介助する日は、そう遠くないに違いない。

文・写真 嘉幡久敬

◆来週は休載します。



大阪大大学院修士課程修了。2016年、「エクサインテリジェンス」社最高技術責任者。合併を経て社名は「エクサウィザーズ」に。現在、同社執行役員。

記者から

人工知能研究会の活動は今も継続中。東京を超えて、関西の熱気を世界に伝えてほしい。